

第1章 昭和63年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての集落跡として著名な吉田地区（吉田遺跡）をはじめ、県内各地に分散する附属施設を含む地区に周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各地区において現状変更を伴う諸工事に際し、埋蔵文化財保護の観点から調査・研究を行なっている。すなわち、埋蔵文化財調査を要する場合は、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、周辺における既往の調査結果や工事内容等を勘案しながら、埋蔵文化財に対する影響の度合に応じて立会、試掘、事前に区分した各調査方法によって発掘調査を実施し、保護措置を講じている。

今年度は12件の立会調査を実施した（Tab. 1）。

Tab. 1 昭和63年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	調査面積(m ²)	調査期間	挿図番号
立	教養部複合棟新営に伴う自転車置場移設	吉田構内	I-16	1	4月15日	Fig. 90 -101
	国際交流会館新営に伴う排水管路埋設	吉田構内	O-22	35	4月27日 4月28日	Fig. 90 -102
	教養部複合棟新営に伴うケーブル埋設	吉田構内	J-18	1	5月10日	Fig. 90 -103
	サッカー・ラグビー場改修	吉田構内	F-19 G-19 H-19・20	25	11月18日 1月27日	Fig. 90 -104
	消防用水設置	吉田構内	K・L・M-22	7.5	3月29日	Fig. 90 -105
会	医学部附属病院病棟新営	小串構内		300	6月8日～ 6月22日	Fig. 91 -17
	医学部運動場整備	小串構内		220	3月7日	Fig. 91 -18
	工学部焼却炉上屋新営	常盤構内		225	1月6日	Fig. 92 -6
	教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修	亀山構内		35	12月19日 2月6日	Fig. 94 -8
	教育学部附属光小学校遊器具移設	光構内		10	5月26日	Fig. 95 -6
	教育学部附属光小学校屋外スピーカー設置	光構内		0.5	8月26日	Fig. 95 -7
	経済学部7号職員宿舍公共下水道切替			1	4月1日	

吉田構内の調査（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部、教養部：山口市大字吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在）実施した5件の立会調査のうち、4件の調査で遺物あるいは遺物包含層、遺構が認められた。

キャンパスの中央部で行なわれた教養部複合棟新営に伴う自転車置場移設工事では、木炭を含む黒褐色砂質土の堆積が認められた。同層は過去に検出されている弥生土器を含む

黄灰色粘質土の遺物包含層の上位に堆積しており、色調、組成などから遺物包含層の可能性が高い。したがって、同地域では少なくとも2枚の遺物包含層の堆積が想定されるに至った。

キャンパスの南端部で行なわれた国際交流会館新営に伴う排水管理設工では、遺物包含層、遺構を検出した。遺物包含層は弥生土器および弥生土器・須恵器を含む色調、組成の異なる2層が確認された。検出地点が異なり、また、遺物は量的にも少なく、時期が特定できなかったため、両層の堆積層順は明らかでない。遺構は河川跡ないしは溝を検出した。検出面で幅約80cmの規模をもち、北西-南東に走行するが、遺物は出土しておらず、時期は不明である。

キャンパスの南西部で行なわれたサッカー・ラグビー場改修工事では、木炭を多量に含む黒褐色土の堆積が認められた。同層の検出面は南に隣接する「遺跡保存地区」で検出される遺構の検出面より低く、色調、組成および周辺の立地などから竪穴住居や土壇などの遺構の埋土と考えられる。なお、工事による掘削は当初、



Fig. 1 山口大学吉田・亀山両キャンパス位置図

同層に及ぶ計画であった。しかし、工事の緊急度が高いこと、また、「遺跡保存地区」の堅穴住居群と一連の遺構であることが想定されたため、工事による掘削深度を埋蔵文化財に影響を及ぼさない範囲内に留めることとなった。

キャンパスの南端部で行なわれた消防用水設置工事では、河川跡を検出した。時期、規模は不明であるが、検出地点から「遺跡保存地区」において北西－南東に走行する古墳～奈良時代の河川跡と同一のものである可能性がある。また、教養部複合棟敷地で検出された縄文時代晩期の遺物包含層と同一層が確認された。遺物は出土していないが、木炭を多量に含み、少なくともキャンパス南半部には分布範囲をもつことが確かめられた。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市大字小串1144所在）

実施した2件の立会調査のうち、1件で遺物が出土した。

キャンパスの中央部からやや西に位置する附属病院病棟新営地域では、試掘調査で旧石器時代の石器群が出土している。しかし、石器は二次堆積層である灰色砂層から中～近世の土器とともに出土し、原位置を遊離している。したがって、層位的な発掘調査はあまり意味をもたないと判断し、新営工事に先だって、人工層位的に同層の堆積範囲内について発掘調査を実施した。その結果、二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・剥片・敲石・礫・原石など38点が出土し、形態、使用石材の多用性とその類似性および縄文時代に遡る土器が認められないことなどから大半が旧石器時代に属するものと考えられた。

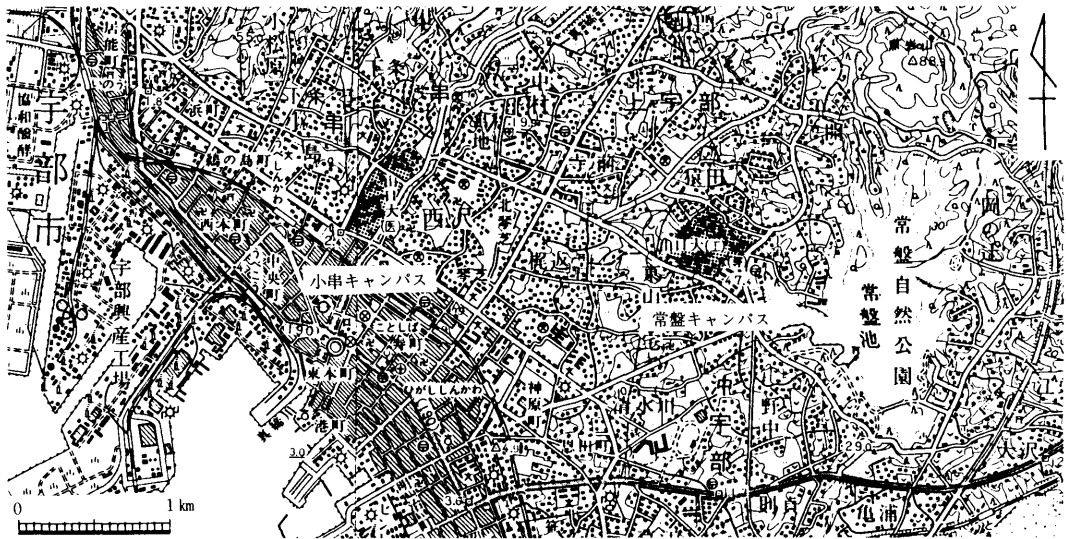


Fig. 2 山口大学小串・常盤両キャンパス位置図

なお、灰色砂層は堆積状況、周辺の立地などから、同地域の西、南方にさらに分布範囲をもつものと想定される。

常盤構内の調査（工学部、工業短期大学部：宇部市常盤台2557、尾山宿舍：同上野中所在）

キャンパスの北端部で焼却炉新営に伴い、立会調査を実施した。しかし、造成による構内の削平が著しく、顕著な遺構、遺物は認められなかった。

亀山構内の調査（教育学部附属幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：同三丁目1-1、同山口中学校：同一丁目9-1所在）

教育学部附属山口中学校敷地の北端部付近で、屋内消火栓設備改修に伴い立会調査を実施した。調査地域周辺は公共下水道新設のため、過去に試掘調査を実施しており、その時点では遺物は出土していない。今回の調査は前回の調査地点のすぐ北側で実施し、二次堆積層からではあったが、土師器、磁器、黒曜石製の剥片若干が出土した。なお、同様な層は他に中学校敷地内でも検出されているが、色調、組成から区分される可能性が高い。

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市大字室積浦1-1所在）

「御手洗遺跡」として周知されている地域で、2件の立会調査を実施した。

キャンパス西端部付近で行なわれた小学校遊器具移設工事では、遺物包含層から歴史時代土師器、陶器、磁器が出土したが、その大半が近～現代の所産であった。

なお、両調査期間中、キャンパスの前面に存在する御手洗湾で、中世を主体とする古墳時代後期～江戸時代の遺物を多量に採集した。護岸工事前の波濤によって、キャンパス内

に堆積する遺物包含層から遊離したもので、畿内系瓦器の存在は当地域では出土例がなく、注目されよう。

その他構内の立会調査

山口市白石二丁目8-7に所在する経済学部の職員宿舎において実施したが、顕著な遺物、遺構は確認できなかった。しかし、同敷地の北側の水田では、歴史時代を主体とした土器が採集され、周辺に中～近世の未周知の遺跡が存在している可能性が指摘されるにいたった。

（河村）



Fig. 3 山口大学光キャンパス位置図